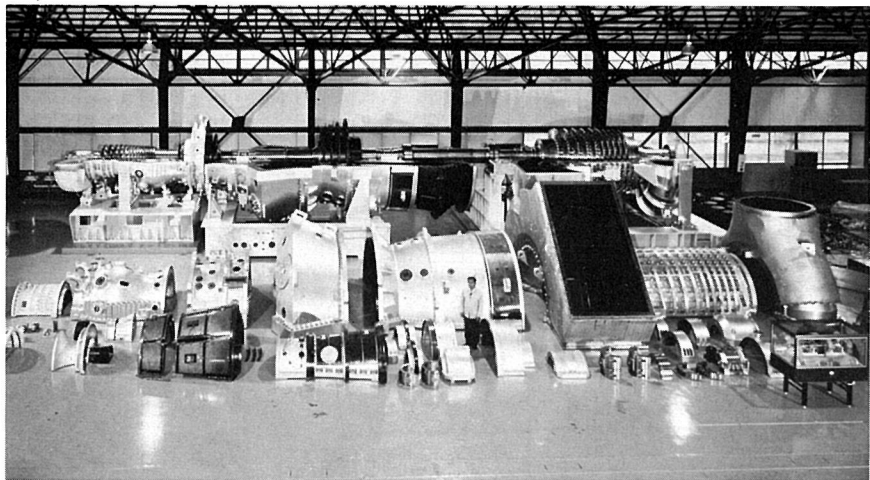




工業技術博物館に設置されたレヒートガスタービン

かねてより、本学の工業技術博物館においてレヒートガスタービンの組立、搬入作業が、機械工学科の松木正勝教授を中心に進められてきたが、このたび設置が完了し、四月二十七日に関係者を集めて披露された。

このガスタービンは高効率ガスタービン技術研究組合より寄贈されたものであるが、その概要について紹介する。

本機は昭和五三年以来一〇〇である一〇〇MW級のレヒートにわたって行なわれた、レヒートガスタービンのパイロットプラント（AGT-J-100）スタービンの研究開発の成果（A）である。

技術者、学生の参考に

レヒートガスタービンの移設完了

この様な高効率のガスタービンを実現するためには、サイクル圧力比が高く、且つサイクル最高温度が高く、圧縮機、タービンなど構成要素の効率がよく、最適な制御も必要であり、試作で実証する必要がある。

そこで基盤技術である耐熱合金の開発、およびセラミックスを利用した高温化技術、および要素の研究開発を先導的に進めると並行して、パイロットプラントとして総合熱効率五〇%以上（LHV）の高効率なガスタービンを試作し実証を行なうこととなった。

そのため圧力比五、五、高圧タービン入口ガス温度一三〇〇度C、再熱後低圧タービン入口ガス温度一二〇〇度Cのレヒートガスタービンのパイロットプラント（AGT-J-100A）を製作し、これを東電の袖ヶ浦発電所内に設置



入学式

▽機械工学科

奥村 敏行
(出雲工)

▽電気電子工学科

塚越 康二
(今市工)

中新井強史
(下館工)

安藤 巨樹
(新居浜工)

▽建築学科

齋藤 秀彰
(東京工)

軍司 雅弘
(蔵前工)

秋山 健一
(春日部工)

青木 徳幸
(蘇南)

- 出身高校別入学者数
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 【北海道】帯広工2 釧路工2 倶知安1 札幌工1 旭川工1【青森】青森工3 五所川原工3 弘前工5 十和田工2 南部工3 野辺地工 | 1【岩手】大船渡工1 黒沢尻工1 宮古工2 一関工2 釜石工2 盛岡工3 水沢工1 久慈工1【宮城】仙台工1 古川工2 米谷工1 鶯沢工1【秋田】小坂2 能代工2 大曲工2 秋田工1 大館工1【山形】鶴岡工4 山形工1 東根工1 米沢工1 羽黒工1 寒河江工1【福島】福島工5 勿来工1 平島工8 小高工3 郡山北工1 高工1 喜多方工1 会津工7 白河実業1 二本松工1 福島1【茨城】総和工6 水戸工9 勝田工5 日立工4 土浦工13 下館工13 大宮工1 波崎2 玉造工2【群馬】太田工3 藤岡工3 高崎工5 前橋工7 伊勢崎工8 桐生工4 長野原1 利根農林2 館林商工4 渋川市立工2【栃木】足利工5 真岡工4 宇都宮工10 今市工2 栃木工6【埼玉】筑波大坂戸狭山工7 行田工8 久喜工17 浦和工5 秩父農工5 川越工17 玉川工1 春日部工27 川口工9 大宮工15 新座総合技術2 熊谷工13 三郷工業技術5 越生 | 2 伊奈学園総合2 春日部共栄1【千葉】千葉工4 茂原工2 市川工12 京葉工6 東総工3 清水2 館山2 千葉工商2【東京】足立工8 王子工5 本所工2 杉並工3 葛西工3 小金井工5 練馬工2 多摩工1 烏山工2 荒川工5 田無工3 墨田工3 工芸1 蔵前工6 北豊島工1 目黒1 砧工2 小石川工1 本郷4 安田学園8 昭和第一工5 関東第一3 大森工2 東工大附工2 工学院大1【神奈川】川崎工1 神奈川工5 藤沢工3 大船工業技術1 桐蔭学園工業高専1【山梨】甲府工4 北富士工6 韮崎工1 機山工4 峡南1【長野】岩村田5 駒ヶ根工4 上田千曲13 箕輪工3 池田工2 松本工10 岡谷工6 中野実業2 飯田工9 飯田長姫1 長野工7 蘇南2【新潟】直江津工2 三条工1 新発田南2 高田工7 長岡工5 中条工1 新潟工1 柏崎工2 新潟工5 巻工1 高志2【静岡】浜松城北工10 浜松工2 島田工3 引佐2 | 沼津工4 清水工4 吉原工5 掛川工6 静岡工6 修善寺工4 天龍林業1 静岡工1【愛知】豊橋工4 一宮工3【岐阜】可児工1 岐南工2 関商工2【富士】富山工2 魚津工1 高岡工1 富野1【石川】羽咋工3 金沢市立工2【福井】敦賀工1 沢市立工2【三重】津工2【和歌山】新宮1【奈良】吉野2 奈良工2【大阪】成城工1 今宮工1 堺市立工1 西野田工1 太成1【兵庫】龍野実業1 豊岡実業1 西脇工1【岡山】岡山工1 津山工1 倉敷工1 玉野光南1 関西1【広島】宮島工1 三次工1 三原工1【山口】柳井工4 岩国工1 下松工1【鳥取】境港工2 倉吉工1 鳥取工1 鳥取西工3【島根】出雲工2【香川】高松工1 坂出工1【徳島】徳島工1【愛媛】松山工2 新居浜工1 八幡浜工1 今治工2 吉田1【高知】高知東工1 高知工5 須崎工1 安芸工1【長崎】佐世保工2【大分】大分工2 日田林工1【宮崎】宮崎工2 都城工1【鹿児島】鹿児島工2 大島工1 鹿屋工3 吹上1 沖縄工1 鹿屋工3 吹上1 沖縄工2 |
|---|--|--|--|

22回目の入学式挙行

フレッシュマン915人

去る四月四日、本学体育館において、二十二回目の入学式が挙行された。学部の入学者は九一五人で、内訳は機械工学科二六五人、電気電子工学科二六八人、建築学科二四一人、システム工学科一四一人である。なお、大学院工学研究科の入学者は、修士課程三八人、博士課程一人である。

特別奨学生紹介

63年度

華中工學院の校名変更

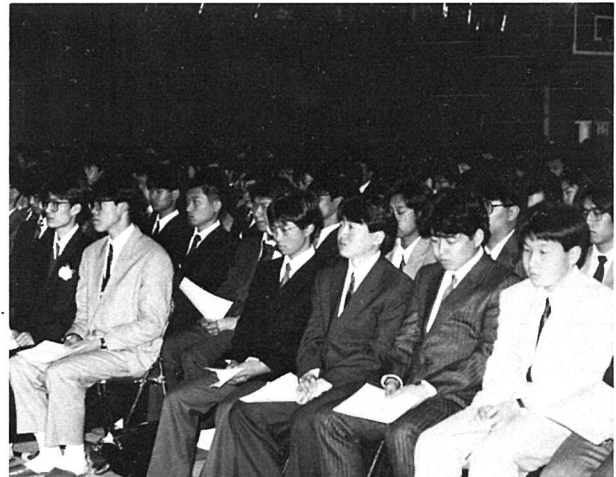
華中理工大学に

昭和五十九年八月に本学のバレーボール部員の訪中と親善試合が実施された。今年、同大学のバスケットボールチームが夏期休暇を利用して来日し、本学のバスケットボール部と親善試合が行なわれる予定である。

この様な一八九八年の日本は複合サイクル総合熱効率五五%（LHV）以上を目標としたプロトタイププラント用ガスタービンの技術検証を行なっており、一月中旬、一四〇〇度Cタービン入口温度による連続運転を成功裏に終了しており、本プロジェクトは所期の成果を挙げて終了した。この様に本機は貴重な記録機で将来技術を含む最先端技術の製品であり、何らかの形で保存したいという声が関係者の間から湧き上ったのは自然な流れであった。これを受けて、通産省工業技術院、高

効率がガスタービン技術研究組合、組合員各社などがこの一〇年の成果を実機の記録として保存する努力をされ、これを本学が受け止めた結果、保存展示が実現したものであり、関係者全員にとって誠に幸運なことであった。

（解説）
機械工学科 松木正勝教授



緊張した面持ちのフレッシュマン

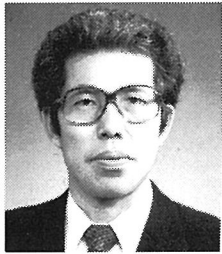


クラブ勧誘でにぎわうキャンパス

積極的な行動で 真の感動を

小林 勉

新入生諸君、入学おめでとう。ここに九百余名を本学の学生として迎えることになった。例年のことながら私も身のひきしまる思いである。言うまでもなく諸君は、大きな期待と希望を持って、日本工業大学に入学したにちがいない。一日も早く学風に慣れ、本学の学生としてのプライドをもって、第一歩を踏み出してほしいものである。これから卒業するまでの四年間は、学生生活の価値を問われることになる。したがって、目的意識をしっかりと持って過ごしてほしい。そうでなければ、本学に入学した意味がなし、退屈しながら日々を送る。



大学は、高校の延長ではないので、与えられることは一つもないと思うべきである。高校まで与えられた時代とするならば、大学は自ら求める時代といえる。今までのように、先生から与えられたテーマをやるだけで済んだ時代とは全く違うのである。自分自身で考え、自ら学びとらなければならぬ所が大学である。また、大学は、より深い知識と新しい友人を求める場でもある。諸君が意欲的に学び、自ら努力するならば、知識は無限に開花するであろう。人間の脳の細胞は、およそ二百億といわれる。その細胞のうち、思考・記憶・判断などの要素に使われているのは、わずか二%である。つまり、人間は誰でも無限の能力と可能性を持っているのである。その能力を自分自身でひき出し、いかに活用するかは諸君

の心構えにかかっている。諸君の青春の大半は、大学で過ごすことになる。たつた一度の青春なのだから教室で単位を取るだけで終わることなく、いろいろなことにトライしてほしいものである。若い時代の経験と思い出は、人生の素晴らしい記録になるであろう。今日のうちに情報過多の中では、体験しなくても分かることが、日常生活ではたくさんある。しかし、人間が成長していくことは、実に多くの困難と戦わなければならない。その困難を克服することによって、初めて満足感や自信を得ることができるといえる。諸君の学生時代の四年間は、これからの人生にとって、最も大きな影響を及ぼすことになるだろうから、行動を通して、真の感動を味わってほしい。

よき先輩や友人についてもある日突然にあらわれるものではなく、自分から積極的に行動することによって、初めて巡り会えるものである。大学時代の交友関係は、高校時代とは比較にならないほど親密になるものである。先輩や友人は人生の師であり、何ものにもかえがたい財産である。本学は研究教育設備に恵まれている。おおいにこれを利用し、そして、先生方の研究室の扉をたたいて、勉学に励んでほしい。立派な技術者を目指すために。

(学生部長・教養科教授)

- 【3月】
20日 卒業証書・学位記授与式
31日 昭和63年度終了
【4月】
1日 昭和64年度開始
4日 入学式
5日～7日 オリエンテーション
10日 前期授業開始
24日～27日 履修申告
- 【11月】
4日～6日 大学祭
4日・5日・7日 休講
22日 学生総会(午後休講)
【12月】
21日～25日 スキー教室
21日～1月9日 冬期休暇
【1月】
10日 授業開始
24日～2月4日 後期末試験
31日 大学院・学位請求論文提出期日
【2月】
6日～8日 教職科目集中講義
【3月】
20日 卒業証書・学位記授与式
31日 昭和63年度終了
【4月】
1日 昭和64年度開始
4日 入学式
5日～7日 オリエンテーション
10日 前期授業開始
24日～27日 履修申告



新入生諸君、日本工業大学は君たちを心より歓迎します。今、諸君は真理を探究しようとする決意と新しい初めての環境に臨んで不安と緊張の中にいます。その姿は真に美しいものであり、微笑ましいものです。さて、諸君は間もなく、大学が如何に自由であるかを認識することになります。思想信条の自由は当然のことでありますが、他に迷惑が及ばないかぎり、傍からの干渉からは全く自由である自分を発見することになります。そこで、自らを律することがいかに困難であるかを自覚すると同時にそれこそこれらの学業を全うするための支点であることに思い至ると思います。

廣瀬 治 男

広い視野を持って

大学に入って、今まで課せられていた様々な制約から突然解放されることになり、同時に独立個人として多くの決断が求められることが多いかと思います。多分その最初のものは履修申告であった筈です。その際、これから進んでいく自分の方向を選択することが必要でした。多分高校時代には無かったことと思いますが、必修科目にも申告が義務付けられています。必修科目でも何時履修して何時単位を取得するかはカリキュラムの範囲内で自由度が有るからです。近年、大学とは単に卒業証書というライセンスを取るところであり、一旦籍をおけば4年後には自動的に手にはいるものと誤って覚えている人達が多くなっているようです。本学では断じてそのようなこととはないことを明言しておきます。先輩の中には怠惰な中にどっぷりと浸ってしまい、大学の建物、教員の研究室、あるいは教室までが近寄り難い象牙の塔に映る者も残念ながらいるようです。しっかりと自覚をもって毎日のキャンパスライフをおくって頂きたいものです。

とはいえ、大学生活の全てが講義と実験演習で終わってしまうのは惜しい限りです。国の内外を問わず、様々な人々、様々な書物との出会いによって知識を広げ、己れの品性の陶冶と人格の錬磨に時と心を割く余裕を期待したいもので

す。大学生としての人格、品性、識見を問われる機会はいかに多いものです。日本工業大学とは、ドラマであり、打てば響く生身のピートであります。誇り高い青春最後の宴の場でもあります。今、この高揚した気持ちこそ日々の学生としての営みの原動力であり、ポテンシャルの高さの基となるものです。技術科学の進歩には目を見張るものがあります。昨日の夢は今日の現実といった感があるこの世界へ、諸君は準備怠りなく飛び込んで行かねばなりません。それには十分な基礎学力をもって異説に耳を傾け新しい思想や技術を取り入れる頭の柔軟性が必要であります。若者にありがちな独善に陥ることなく、広い視野を持つ青年として4年後には力強く巣立っていくことを心より願ひ、諸君のたゆまぬ精進を期待しています。

(教務部長・電気電子工学科教授)

これからの 行事予定

- 【5月】
20日 体育祭(休講)
22日 後援会総会
28日 学生総会(休講)
【6月】
29日 創立記念日
【7月】
11日～22日 前期末試験
23日～9月17日 夏期休暇
25日～29日 教職科目集中講義
31日～8月25日 カナダ短期留学
【8月】
24日～9月10日 ヨーロッパ研修
【9月】
19日 後期授業開始
【10月】
3日～6日 履修申告
【11月】
4日～6日 大学祭
4日・5日・7日 休講
22日 学生総会(午後休講)
【12月】
21日～25日 スキー教室
21日～1月9日 冬期休暇
【1月】
10日 授業開始
24日～2月4日 後期末試験
31日 大学院・学位請求論文提出期日
【2月】
6日～8日 教職科目集中講義
【3月】
20日 卒業証書・学位記授与式
31日 昭和63年度終了
【4月】
1日 昭和64年度開始
4日 入学式
5日～7日 オリエンテーション
10日 前期授業開始
24日～27日 履修申告

文化団体連合会 体 育 会

所属団体一覧

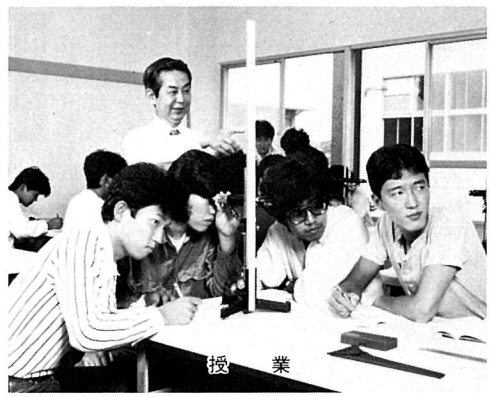
文化団体連合会			体 育 会		
ク ラ ブ 名	顧 問	学 生 責 任 者	ク ラ ブ 名	顧 問	学 生 責 任 者
ハ ン グ グ ラ イ ダ ー 部	小 倉 勝 助教授	秋 間 久 仁(機・3)	ア ー チ ャ ー 部	高 橋 篤 夫教授	金 子 博 臣(シ・4)
無 線 部	中 道 一 郎 教授	市 嶋 正 明(電・3)	ア メ リ カ ン フ ッ ト ボ ー ル 部	高 酒 井 誠 助教授	小 林 功(機・4)
B J P フ ル バ ン ド ジ ャ ズ サ ー ク ル	新 妻 弘 助教授	寺 見 公 男(機・4)	ウ ェ イ ト リ フ テ ィ ン グ 部	松 木 繁 毅 助教授	長 南 国 彦(機・4)
モ ダ ン フ ォ ー ク ソ ン グ ク ラ ブ	伊 藤 庸 一 助教授	大 野 謙(シ・2)	応 空 手 道 部	窪 田 英 彦 助教授	染 谷 知 之(電・3)
写 真 部	堀 田 勝 喜 助教授	渡 部 修 司(シ・3)	弓 道 部	竹 内 淳 彦 助教授	神 尾 定 男(電・4)
自 動 車 部	小 倉 勝 助教授	松 橋 学(電・3)	剣 道 部	有 難 波 幸 恒 助教授	上 田 浩 二(建・4)
第 三 文 明 研 究 会	松 田 郁 夫 教授	本 間 博 史(シ・3)	硬 式 庭 球 部	鈴 木 一 良 助教授	金 子 正(機・4)
ユ ー ス ホ ス テ ル ク ラ ブ	高 橋 篤 夫 教授	関 和 三(シ・3)	フ ー バ ー 部	北 後 重 慶 助教授	佐 藤 直 樹(電・4)
美 術 部	杉 本 安 次 郎 教授	梅 田 集 徳(機・3)	バ ー ド 部	長 田 戸 卓 助教授	塚 本 誠(機・4)
新 建 築 デ ザ イ ン 研 究 会	宮 坂 修 吉 教授	細 渕 秀 彰(建・3)	ス ー パ ー バ ー ド 部	城 高 橋 琢 二 助教授	篠 崎 保(電・4)
自 然 愛 好 会	泰 野 愈 士 講師	小 西 孝 洋(機・4)	カ ン ン 部	大 森 信 明 講師	滝 本 敦(シ・4)
芸 能 研 究 倶 楽 部	伊 藤 隆 教授	藤 森 元 基(機・3)	射 撃 部	大 久 保 勝 弘 助教授	鈴 木 光 明(機・4)
ロ ッ ク フ ィ ー ル 部	玉 木 保 教授	国 重 晃 三(シ・3)	柔 道 部	酒 井 林 茂 助教授	長 井 武 稔(電・4)
マ イ ク ロ コ ン プ ュ ー タ 研 究 会	片 山 滋 友 講師	渡 辺 良 太 郎(電・3)	少 年 体 操 部	小 林 勉 助教授	松 浦 和 彦(機・4)
放 送 研 究 部	片 山 滋 友 講師	井 上 三 正(電・3)	卓 球 部	小 嶋 田 勉 助教授	松 尾 芳 孝(電・4)
鉄 道 研 究 同 好 会	岩 瀬 勝 教授	石 井 清 之(機・3)	軟 式 球 部	岡 本 鑑 輔 助教授	植 藤 繁 雄(建・4)
漫 画 研 究 同 好 会	中 村 洋 一 助教授	大 竹 賢 一(機・3)	日 本 式 剣 道 部	石 崎 敬 三 助教授	中 山 義 治(電・4)
			バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	鈴 木 寛 次 郎 助教授	梶 本 好 弘(電・3)
			排 球 部	杉 本 安 次 郎 助教授	谷 飯 洋 文(機・4)
			ホ ー ル ボ ー ル 部	中 伏 見 恒 夫 講師	船 越 裕 史(建・4)
			テ ン ニ ス 部	中 道 一 郎 助教授	福 光 裕(機・3)
			グ レ ッ ド 部	宮 坂 修 吉 助教授	洞 澤 孝 康(シ・4)
			上 競 技 部	桑 原 文 夫 助教授	関 根 竜 真(機・4)
			フ ォ ー ゲ ル 部	新 妻 弘 助教授	清 水 雅 彦(機・4)
					田 中 伸 一(電・3)



体育祭



学生談話室



授業

ようこそ
フレッシュマン



盆踊り大会

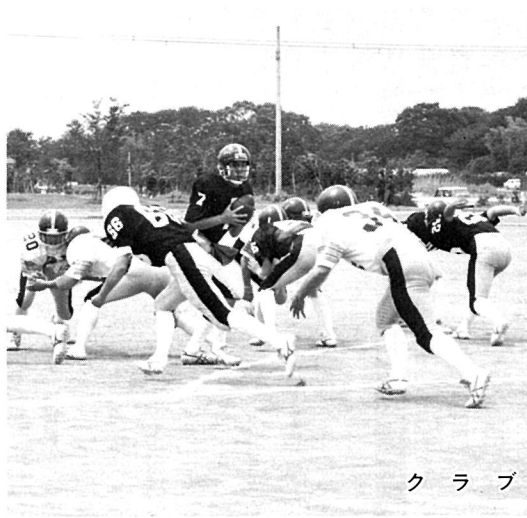


大学祭

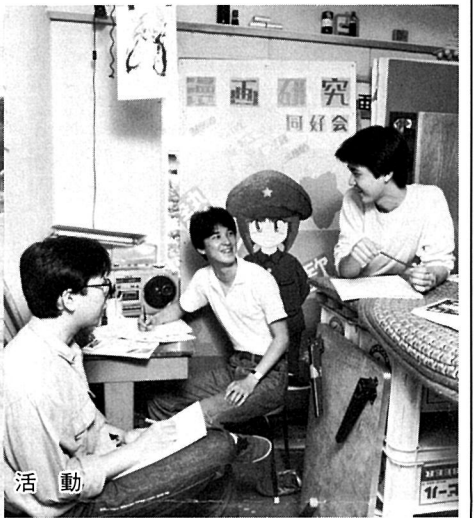
君たちを待つ
キャンパスライフ



図書館



クラブ活動



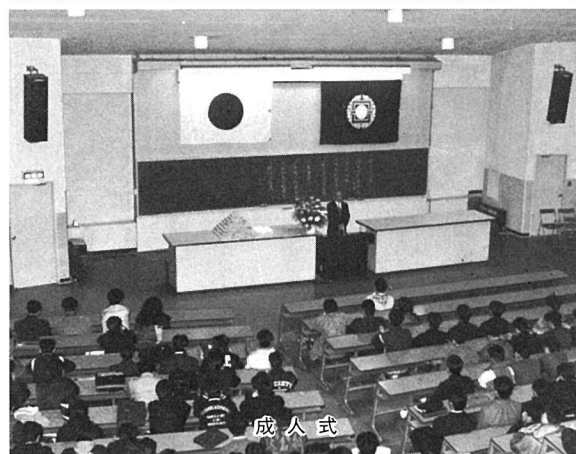
ソフトボール大会



スキー教室



学生食堂



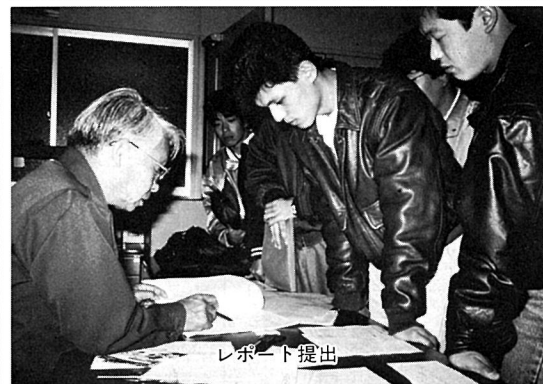
成人式



海外研修



保健体育センター



レポート提出



就職活動



機械工学科卒業研究発表会

卒業研究発表会

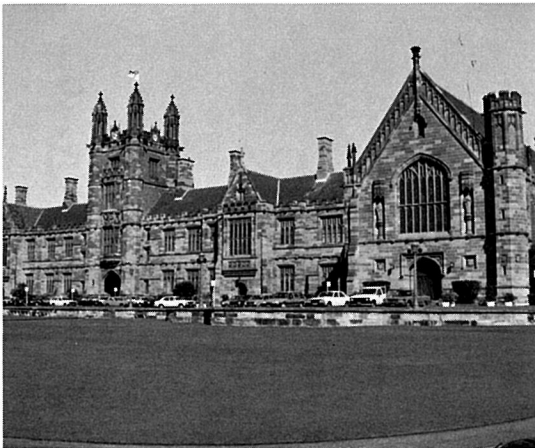
オーストラリアでの 研修生活を終えて

桑原 文夫

昭和六十二年四月から一年間オーストラリアのシドニー大学で研究生活を送ることができた。出発の前年から始めた杭基礎に関する研究を一気に躍進させようと、この分野では世界的にも最高の權威であるシドニー大学のブラス教授のもとに胸をふくらませて出かけた。シドニー滞在中は十数年前の学生時代に買ったような気分が研究に没頭することができた。妻と二人の子供とともに過した初めての海外生活は不安やとまどい以上に楽しみの多いものであり、最高に充実した一年間であった。これらは日工大関係各位の絶大な支援と、シドニー大学およびオーストラリアの人々の心温かい協力に負うものであり、先ず感謝の意を表するものである。

出発まで

かねてから海外留学を希望していたものの、いざそれが実現可能となると準備期間が短く、非常にあわただしいものであった。ブラス教授から客員教授として迎えられる手紙を受け取ったのは昨年の二月の終わりである。その後、教室会議・教授会を経て日工大側の承認をいただき、シドニー大学事務局から正式の招聘状が着いたのが三月二十六日。オーストラリア大使館からビザを受け取るや否や、成田空港を出発したのは四月十日の夕方であった。ブラス教授から手紙を受け取ったから四十日目のことである。時間的にも余裕があれば、十分な打合せや海外生活に対する準備や心構えができたであろう。しかし、先方の都合、こちらの事情、さらに資金の問題と三拍子揃えるのはなかなか難しく、現実には私の場合と似た状況が多いようである。海外留学を思い止まる理由を上げることは可能であるが、多少の無理を押し通しても行ってみる価値があるというのが今の実感である。欧米人の間ではお互いに行なう海外研修



シドニー大学本館

を非常に重要なものと考えている。まして言葉や習慣の異なる我々にとって、その価値は更に高いものと思わねばならない。

シドニーとシドニー大学

シドニーはオーストラリア大陸東岸の町で、日本との時差は一時、東京とほぼ同緯度にある。西岸海洋性気候の大変適しやすいところで、最初のイギリス移民が落ち着いたことがうなづける。夏と冬の気温差は少なく、むしろ昼夜の差が大きい。もちろん夏と冬が日本とは反対である。シドニーはオーストラリア最大の都市で全人口千六百万人の四分の一が集まるニューサウスウェールズ州の州都である(首都はキャンベラ)。この国では都市とは人の住むところという意味であり、大都市シドニーも例外ではない。高層ビルが建っているのはシティと呼ばれる一區画だけで、多くの緑と空と海の青さが印象的である。晴天が多く、海岸線が複雑で入江が奥深く入り込み、美しい景色を作っている。都市の外側には農地・羊や牛の放牧地が広がり、その奥にはまっ赤な土地が延々と続いている。

シドニー大学はシティに近く、古くから開けた場所にある。東西二キロ、南北一・五キロのキャンパスは広大な大陸国家オーストラリアとしてはやや狭い気がする。一八五〇年に設立されたオーストラリアでは最も古い大学である。当時イギリスの植民地であったこの地に、本国のケンブリッジ・オックスフォードに匹敵するような大学をという主旨で設けられたそうである。



ブラス教授(後列左から2人目)とのディナーの後の写真

のである。この理論はブラス教授によって提唱され、境界要素法と名付けられている。杭の変位解析として三次元有限要素法が経済的理由で時期早尚と見られている現時点では最も有力な方法と評価されているものである。

最初の三ヶ月はこの理論を理解するために費やされた。とにかく疑問の点は直ちに氷解するので、提唱者がそばに居るといことは何とすばらしいことかを感した。その後、この理論をもとに群杭の沈下解析に適用する手法を開発し、論文にまとめることができた。これについては良き指導者・協力者を得たおかげであり、本当にラッキーであったと思っている。

英語能力の向上について

英語に相当自信がある人以外、海外留学の目的の一つに上げたいと思うのが英語能力の向上であろう。筆者もその範ちゅうに入り、それだけに進歩の余地があると思ひ、一年間いろいろな機会を捕えて努力を続けたつもりである。その結果、確かに向上したことは事実であるが、しかしまだまだ不十分というのが正直な感想である。

日常のさほど重要でない会話は大抵の意志が通じればそれで良しとしてしまう傾向にあり、毎日の新聞は自分のボキャブラリ不足を確認するた

リキラムが用意されていたが私は毎日二時間程度出席し、何とか一年間続けることができた。ここでは工学部以外のしかも海外から来ている学生や研究者とも友人になることができた。

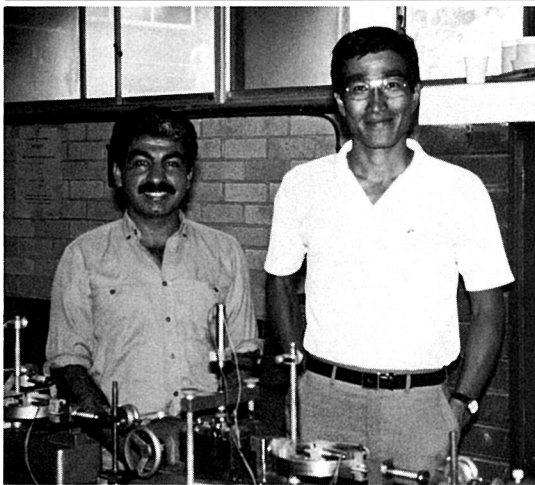
おわりに

現在、日本とオーストラリア両国は過去の歴史にないほど密接な関係にある。オーストラリアにとって輸出入とも最大の相手国は日本である。街にはあらゆる分野の日本製品が溢れ、市場を席巻しようという勢いである。彼らは日本を技術レベルが高く、金持ちの国といった見方をしている。

しかし、彼らの住環境や食生活の豊かさは日本の比ではない。これは国土の広さの違いによるものとして諦めるとしても、ゆとりのある生活習慣や人間関係の豊かさなど、彼らを羨ましいと感じたことも事実である。日本人は働き過ぎだと言われるが(私はこの考えには賛成しないが)、そのエネルギーや得られた富の使い方が間違っていないだろうかという疑問を持った。

オーストラリアでの一年間の生活を通して感じたことは山ほどあるが、それらはまた別の機会に述べさせていただくことにする。

(建築学科助教授)



イラクからの留学生リアドと土質実験室で

昭和62年度 学外研修等一覧

- ☆桑原文夫「杭基礎に関する研究」(4/1〜63年3/31 オーストラリア)
- ☆片山茂友「中国の工作機械工場実態調査」(4/29〜5/5 中国)
- ☆飯塚完司「第2回III-V族化合物半導体の欠陥検出、画像表現国際シンポジウム」(4/24〜5/2 アメリカ)
- ☆村川正夫、御所康七「華中工学院で講義」(5/1〜5/15 中国)
- ☆豊田昇「SPSE例会、混成画像システムに関するシンポジウム」(5/17〜5/22 アメリカ)
- ☆水野坦「ブラジル日系人実態調査」(4/28〜5/10 ブラジル)
- ☆山田忠弘「バイナリタービンステムに関する研究会」(5/12〜6/8 西ドイツ、ポーランド、オーストラリア)
- ☆池田義雄「第6回国際ヒートパイプ会議において研究発表」(5/23〜6/5 フランス)
- ☆村川正夫「NAMRCXVにおいて研究発表」(5/25〜5/31 アメリカ)
- ☆松本正勝「第8回空気吸込エンジン国際会議にて研究発表」(6/12〜6/25 アメリカ)
- ☆村川正夫「鍛圧学会に出席、招待講演」(6/14〜6/22 中国)
- ☆楠井武一「総合病院における空気質の測定調査研究」(代表病院の調査) (6/21〜7/6 ソ連、ポーランド、ハンガリー、イギリス)
- ☆佐伯正盛「電離気体現象に関する国際会議において研究発表」(7/10〜7/20 イギリス)
- ☆辻陽一「第8回国際応用言語学会において発表」(8/15〜8/27 オーストラリア)
- ☆水野坦「ブラジル日系人実態調査の実施、管理、集計指導」(7/28〜8/18 ブラジル)
- ☆村川正夫、NIELICTRに参加研究発表(8/22〜8/31 西ドイツ)
- ☆横谷真一郎「国際溶接学会講演」(7/4〜7/16 ブルガリア)
- ☆竹内淳彦「PRSCOに議長、ディスカッサントとして参加発表」(7/5〜7/13 韓国)
- ☆田中知英、栗本収「カナダUBC語学研修短期留学の引率」(8/2〜8/27 カナダ)
- ☆飯倉道雄、関根政徳「第15回ヨーロッパ研修の引率」(8/22〜9/9 ヨーロッパ)
- ☆玉木保「骨柱の力学モデルに関する研究の完成」(7/26〜10/9 アメリカ)
- ☆小竿真一郎「Indoor air 1987年参加講演」(8/14〜8/29 西ベルリン)
- ☆御所康七「第5回高電圧工学国際会議研究発表、ヨーロッパ各大学研究視察」(8/23〜9/8 西ドイツ、フランス)
- ☆岩隈利輝「西欧農村整備現地調査、日独農村計画学会共同研究会研究報告」(8/25〜9/13 スペイン、フランス、西ドイツ)
- ☆石井治「国際標準化機構ISO TC 97 SC 11会議出席、活動調査」(9/12〜9/27 イギリス、スウェーデン)
- ☆山田忠弘「1987年回転機に関する国際会議出席」(9/26〜10/1 西ドイツ)
- ☆鈴木清「第7回欧州国際工作機械展(EMO)、セラミック加工機の発表」(10/12〜10/24 イタリア)
- ☆鈴木敏正「1987年電気化学日米合同会議」(光電気化学シンポジウムで研究発表) (10/17〜10/25 アメリカ)
- ☆中村洋一「1987年米国IEEE-IAS年会出席発表、電子写真画像に関する収集研修」(10/17〜10/25 アメリカ)
- ☆豊田昇「1987年米国IEEE-IAS年会出席共同発表者の助言指導、情報交換」(10/17〜10/25 アメリカ)
- ☆福田成二「アメリカの都市開発及び再開発の事例セミナー参加」(10/20〜10/28 アメリカ)
- ☆関口修「学校教育と業務との関係についての国際会議で発表」(11/3〜11/8 韓国)
- ☆楠井武一「都市環境工学国際シンポジウムにおいて論文発表」(10/25〜10/28 韓国)
- ☆北後寿「メキシコ地震被災建物の実態調査、メキシコ・アメリカ・日本研究協議会出席」(11/2〜11/11 メキシコ)
- ☆山田忠弘「ORCシステム、風力エネルギーシステムのシンポジウムセミナー」(12/12〜12/31 西独、スイス)
- ☆宮坂修吉「金属屋根材の調査」(63年1/27〜2/5 アメリカ)
- ☆豊田昇「SPSEノンインパクト記録技術国際学会講演」(63年3/19〜3/26 アメリカ)
- ☆松本正勝「欧州に於けるセラミックガスタービンの開発状況調査」(63年2/7〜2/18 西独、仏、スウェーデン)

人事異動

四月一日付

任用

▽教養科 教授
高本研一（たかもと・けんいち）
京学芸大学教授。
▽電気電子工学科 教授
石田之則（いしだ・ゆきのり）



大正十五年七月二十五日生。
昭和二十五年三月、東京大学文学部文学科卒業、二十七年三月、東京大学大学院ドイツ文学科退学。前東京都立大学人文学部教授。
▽教養科 教授
船橋昭一（ふなばし・しょういち）
昭和十七年九月十二日生。四十二年三月、東北大学大学院工学研究科修士課程（電気及び通信工学専攻）修了。日本電信電話公社電気通信研究所室長を経て、NTT技術移転（技術部長）となる。工学博士（東北大学）。業績賞（電子情報通信学会）を受賞。
▽建築学科 教授
村口昌之（むらぐち・まさゆき）



昭和十七年二月十五日生。四十五年三月、東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程（数学教育専攻）終了。四十九年三月、東京工業大学大学院理工学研究科修士課程（数学専攻）修了。前東京都立工業高等専門学校教授。
▽教養科 客員教授
大木吉甫（おおき・よしすけ）



大正十四年三月十六日生。昭和二十五年九月、東京大学文学部フランス文学科卒業。二十八年三月、東京大学大学院フランス文学科退学。前東京

一九七三年、MA言語学、比較文学取得、一九七五年から外国語としての英語、大学進学課程英語教育に従事。
▽工業教育研究所 講師
難波昭三（なみば・しょうぞう）



昭和二年七月十九日生。二十三年三月、東京都立理工専門学校工業理科学科卒業。前茨城県立土浦工業高等学校校長。▽建築技術研究センター助手
貫井光男（ぬくい・みつお）



昭和五十九年三月、日本大学大学院理工学研究科博士後期課程（海洋建築工学専攻）修了。工学博士（日本大学）。▽総務部庶務課
林祐司（はやし・ゆうじ）



昇任
▽建築学科 講師
福田成二（ふくだ・せいじ）



昭和二十年八月三十一日生。四十四年三月、東京工業大学工業教員養成所建築学科卒業。四十五年四月、本学建築学科助手。研究テーマは施設と圏域に関する研究、米国における開発・再開発の事例研究。

異動

▽電気電子工学科 講師
青木収（あおき・しゅう）



昭和二十九年十月六日生。五十九年三月、日本工業大学工学研究科修士課程（電気工学専攻）修了。五十二年四月、本学電気電子工学科教育技術員。短時間放電および増動接触における火花の測定に関する研究を進めている。
▽三苫正光 建築学科教授（定年）
▽水野坦 教養科教授（定年）
▽横堀武夫 機械工学科教授
▽西尾元充 情報技術センター教授
▽菅沢一之 工業教育研究所研究員
▽川副富男 教養科教授
▽ロドリ・D・フィンドリー 外国人講師（英語）

退職

三月三十一日付

大学院研究科委員会 新人事でスタート

昨年四月に、本学の大学院工学研究科に博士課程が増設され、大学院の充実、整備がはかられてきた。
昭和六十三年度は、研究科委員会に副委員長（町山忠弘）の職が新設された。幹事も次の通り決定した。これによって、

- ◇委員長 大川陽康学長
- ◇副委員長 町山忠弘教授
- ◇幹事 村川正夫教授
機械工学専攻 岩瀬 勝教授
電気工学専攻 吉岡 丹教授
建築学専攻

作品募集

第2回

日本工業大学建築設計競技

課 題 都市郊外に建つ地下室をもつ住宅の設計

課題の目指すもの

快適な環境に恵まれた都市近郊の住宅地のなかには、近年の地価の高騰によって宅地が細分化されるなど、従来の居住環境が破壊されるような例が目立ってきました。

そこで、今後も優れた居住環境を保ちながら、宅地の高密度利用をめざした、地下室のある住宅の提案を期待します。

応募資格 応募時に高等学校の建築科またはこれに準ずる学科に在籍しているもの

提出期限 昭和63年 8月31日

入賞発表 昭和63年 9月30日

審査委員 （日本工業大学教授）
清家 清、宮坂修吉、村口昌之

※なお、詳細については応募要項をお読みください。

海外研修募集



'87ヨーロッパ研修から（ポンペイの遺跡）



'87カナダ短期留学から（修了式）

第5回 日本工業大学

カナダ短期留学（語学研修）

期 間	63年 7月31日～8月25日（26日間）
費 用	545,000円
研 修 先	ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）の語学研究所（カナダ・バンクーバー市）
プ ロ グ ラ ム	月～金曜日 午前中3時間教室で授業、午後は週1回フィールドトリップがある。
カリキュラム	①聞いて理解する力②単語と熟語③英会話④バンクーバー市内での英語の実践的な活用
宿 舎	ホームステイ（バンクーバー市在住のカナダ人の家庭に滞在し、その家族の一員として生活する。）
そ の 他	UBCでの語学研修終了後、アメリカのロサンゼルスへ渡り、研修成果を实践する。オプション・ツアーもある。
窓 口	教務課

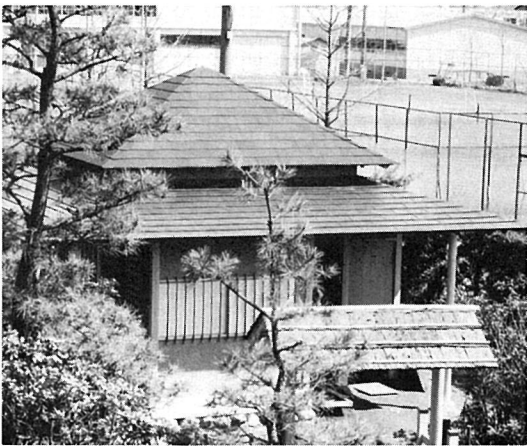
第16回 日本工業大学

ヨーロッパ研修

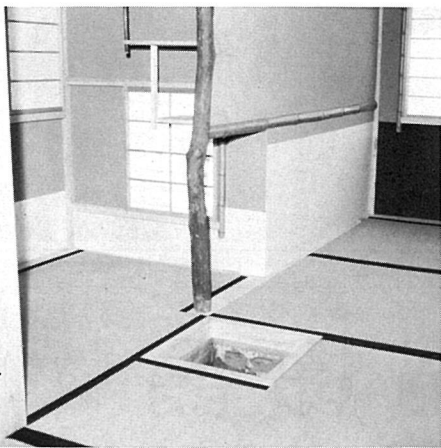
期 間	63年 8月24日～9月10日（18日間）
費 用	545,000円
行 き 先	ロンドン→パリ→バルセロナ→ローマ→ピサ→フィレンツェ→ベニス→チューリッヒ→ミュンヘン
窓 口	学生課

茶室“日々庵”完成

先月、工業教育記念館の庭の一角に茶室が完成した。この茶室研究会が進めてきたものの茶室の研究は、建築学科の



日々庵の全景



内部

に発足し、当初は茶室の見学を主とし、その後、設計・製図、模型の製作へと進展した。この間、茶室の研究は先輩から後輩へと引き継がれ、このたび、完成の運びとなった。茶室は、四畳台目、二間半四方の数寄屋造りで、屋根は方形でできている。待ち合い室は窪田宗英理事長により、**「日々庵」**と命名された。

研究室では

33

地域計画研究室

今の世の中は乱世の様相を呈している。

円高で企業は海外へ出て行ってしまう。貿易摩擦で自由化を迫られ、農業は潰滅寸前である。内需拡大は巨大開発を指向し、一極集中的な体質はビルで東京湾を埋めつくしてしまおうとしている。またダブっている金は狂乱地価を惹起し、庶民が街に住みづけることを拒否してしまった。そして依然として自然破壊はつづき、環境は悪化している。東京は過密で安全性を全く喪失してしまった。

この様な状況は、地域計画の分野に対して、二つの大きな問題点を提起する。

一つは社会解体であって、経済社会的基盤の崩壊と、人工的コミュニケーション手段の発達による直接的コミュニケーションの外化によって惹

起されて来る。もう一つは、自然との関係の放棄であって、人工世界の強度の肥大化によって、地球規模での自然破壊をもたらしている。

地域は本来、自然の大地の上に地域的な人間関係をもつて存在する自主的な共同体であった。近代化の初頭にゲマインシャフトはゲゼルシャフトに変化したのであるが、現代においてもゲマインシャフト的な質はエコロジカルな性質として保存されていて、地域を幸うじて支えている。

しかし、諸施策はこれを支える方向にはなく、解体する方向に向いているように見える。

他には、他研究室をも加えて、こうした立場から計画を具体化したものとして住吉計画をもっている。

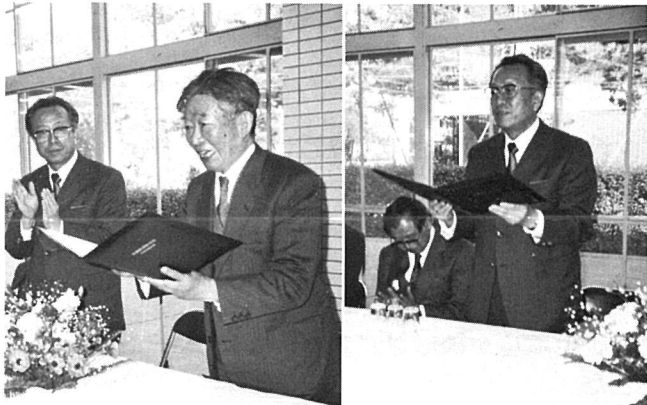
住吉計画は大阪市の住吉地区に、計画面積6ha住宅5000

三浦前学長と三苦教授に

名誉教授称号授与

去る三月二十四日に開催された年度末の教職員懇親会および退職者送別会の席上で、大川陽康学長から直接、三浦

勲郎前学長(現顧問)と三苦正



名誉教授の称号を受ける三浦前学長(写真左)と三苦教授(右)

イライラの世界

三浦 勲郎

北千住で準急羽生行を待っていた。白線のすぐうしろに立っていた。電車が入ってきてドアが開くと、後ろから激しく押された。中は空いていて、空席はたくさんあった。それでも後ろから押してくるので、私は横によけた。後ろの人はそばをすりぬけて、空いている席に乱暴に腰をおろした。私はゆっくりり中に進んだが、それでも腰かけることができた。

電車草加に着くと、私は突然声をかけられた。「さつきは失礼しました。今日は朝からイライラしていたのですから。」

それはあの後ろから乱暴に押してきた人であった。オーバーを着、革のカバンを提げたちゃんとした人だった。こんな挨拶を受けたのは初めてのことで、私はびっくりして、ホームに降りて行くその後ろ姿を見送った。

(顧問)

工学部 募集人員

機械工学科 (200)		電気電子工学科 (200)		建築学科 (200)		システム工学科 (120)	
特別奨学生入学		推薦入学		一般入学		一般入学	
出願期間	9月16～9月30日	11月1日～11月12日		1月10日～2月10日		1月10日～2月10日	
試験日	10月12日(面接)	11月21日		2月15日(筆答)・16日(面接)		2月15日(筆答)・16日(面接)	
合格発表	10月19日	第1回目 12月10日まで 第2回目 1月30日まで		2月22日		2月22日	
入学手続		書類審査		2月28日まで		2月28日まで	
選考方法	第1次審査 書類審査 第2次審査 面接			調査書、筆答、面接による総合審査		調査書、筆答、面接による総合審査	
出願資格	高等学校を卒業見込みの者で、次のいずれかに該当する者。 1. 学業成績が特に優秀で、身体、思想ともに健全であり向学心堅固な者。 2. 学業成績が優秀で特に優れた特長・特技を有し、本学においてその伸展が期待できる者。 3. 学業成績が良好であり、かつ全国高等学校選手権大会等において入賞の経験を有し、本学においてその伸展が期待できる者。	本学が指定する工業高校(高校の工業科)の現役で、成績概評がB以上の者。志願学科と同系統の工業科を履修していること。(システム工学科を志願する場合はこの限りではない。) (注) 出願書類等は高校の進路指導室へ送付されます。		試験場 本学		試験場 本学	

大学院工学研究科募集人員

修士課程		博士課程(後期)	
機械工学専攻(8)		機械工学専攻(2)	
推薦入学		推薦入学	
出願期間	9月10日～9月19日	出願期間	9月10日～9月19日
試験日	9月30日	試験日	9月30日
合格発表	9月30日	合格発表	9月30日
一般入学(一次募集)		一般入学	
出願期間	9月21日～10月1日	出願期間	9月21日～10月1日
試験日	10月7日・8日	試験日	10月7日・8日
合格発表	10月17日	合格発表	10月17日
一般入学(二次募集)		一般入学	
出願期間	2月21日～3月1日	出願期間	9月21日～10月1日
試験日	3月8日・9日	試験日	10月7日・8日
合格発表	3月13日	合格発表	10月17日

'89学生募集要項